

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書

研究代表者 所属・職名 社会・教授

氏 名 中平一義

研究期間 令和6年度

研究プロジェクトの名称	新聞を活用した教育（NIE）によるメディアリテラシー研究
研究プロジェクトの概要	<p>本研究プロジェクトの目的は、生徒のメディアリテラシーを育成することを目指し授業開発とその実証研究を行うことである。近年、学校現場においては PC などを利用した調べ学習が展開されている。生徒が自由に自らの興味や関心に基づいて課題について調べ、解決策を導き出している。しかしながら、フィルターバブルやエコーチェンバーの存在に気が付かず、自らが自由に調べているようで実はインターネットのプラットフォーム側に調べさせられている実態がある。さらに、AI の出現によりその傾向は強くなることが考えられるとともに、フェイクニュースの存在がその問題を複雑化させている。</p> <p>そこで本研究プロジェクトでは、インターネット上の情報収集・伝達にかかわるアルゴリズムの傾向について伝えるとともに、フェイクニュースに対応するために情報精査の方法を、これまでの新聞を使った教育の成果を踏まえて実施する。ここに本研究プロジェクトの特色とメディアリテラシーを育むといった意義がある。</p> <p>以上のような視点からのメディアリテラシーを育むことは、これからより広がるインターネットを使用した教育活動に対して一つの判断の足場を形成することになり、これらを学会や論文等で発表することにより、日本中の学校現場の教育活動に寄与できることが期待される。</p>
研究成果の概要	<p>以下①～③を目的とした授業開発と実践を行った。①自らの情報を取り巻く実態（メディアリテラシーの必要性）について理解させる。②情報を読み解く能力（メディアリテラシーの初期段階）を身に着けさせる。③情報を伝えるという行為により情報と向き合う力（メディアリテラシーの上位段階）を向上させる。授業の中では NIE の技法やフェイクニュースについての内容を特に詳しく扱った。</p> <p>なお、授業については上越市内の中学校と北海道函館市内の学校で行うとともに、新潟日報社と北海道新聞社の協力により新聞作成と共有、オンライン上の議論を行った。なお、作成した新聞にはフェイクニュースを入れた。相手に伝わることと、伝えること、を意識させた。</p> <p>現在、作成した新聞、オンライン上の交流、ワークシートの分析を行い、本研究の成果について考察を重ねている。</p>
研究成果の発表状況 （※今後の予定も含む。）	<p>（今後の予定）</p> <p>2025年6月29日（日）日本公民教育学会（北海道大会）で発表予定。</p> <p>2025年11月以降、日本 NIE 学会に論文投稿予定。</p> <p>2026年度からの科研に応募予定。</p>
学校現場や授業への研究成果の還元について	今後の学会発表や論文発表により、ひろく学校現場に還元するとともに、教員養成における情報との向き合い方の授業内容として活用する。